二〇一三年度

S国語問題

注意

一　試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
二　解答用紙はすべて**HBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシル**で記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。（万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。）
三　この問題冊子は**20ページ**までとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号は**一～三**となっています。
四　解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に**氏名**のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
五　解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
六　解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
七　この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

一　マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
二　一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。
三　訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
1 2 3 4 5 ○ ○ ● ○ ○

（3と解答する場合）

一　左の文章を読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

身体はその筋肉と骨格の構造から、つねに動こうと身構え、格別の目的がなくてもたえず小さく動いている存在である。そして逆に身体は動くことによって形成され、動きの様式によって容姿と形態を決定されている。ホモ・サピエンスはもともと二足歩行の可能な身体構造を備えているが、その構造は幼児期に教育を受けたうえ、現に歩くことによって初めて完成され、一生を通じて歩き続けることによって強化されているのである。

その意味で身体のあり方と運動の様式はほぼ同義語なのであるが、この様式が十九、二十世紀を通じて世界的に標準化されてきたのは明らかだろう。もっとも身体運動の標準化は、十九世紀段階ではおもに生産労働の規格化を通じておこなわれた。機械生産が普及したうえ、農業や土木工事のような作業も近代化され、それに応じて労働の仕方も世界共通の様式を持ち始めた。もちろん職人仕事、家事労働といった分野ではまだ伝統の違いが残っているが、大企業の事務や製造や販売の現場など、文明の中心を占める労働の分野では国際化が進んだ。早い話が、(1)算盤や鋸の使い方には地域による差異があるが、電卓や電動鋸の操作法にはもはやそんなものはないのである。

しかしここで忘れてはならないのは、人間の身体運動はそもそも、そうした生産や実用の世界に限られていないということだろう。先に述べたように、身体運動は身体の構造のなかにつねに秘められているものであり、いいかえれば外界に働きかけるだけではなく、身体が身体であるために、身体が存続するためにたえず機能しているものなのである。

身体はしばしば、倦怠感や所在なさを解消するためだけにも動く。みずからを癒し、みずからを粧い、みずからを強めるためだけにも動く。何よりもみずからの存在を感じ、それを鋭く意識するために動く。身体はみずからがあることを確かめ、その存在感を味わうためにも運動するのである。要するに生産的、実用的な身体運動が「する」身体の営みだとすれば、ここにはもう一つ別の運動があって、それは「ある」身体の自己確認の営みだ

といえるだろう。

そしてとりわけ二十世紀に顕著なことは、世界的な統一の趨勢が、この身体の自己確認のための運動の様式にまでおよんだことであった。非生産的、非実用的な行動の様式が、(2)にわかに文明の境を超え始めたのである。

まずいわゆる文化交流の進展に伴って、日常生活の礼儀作法の共通理解が深まった。西洋風のテーブル・マナーと食器が東漸（とうぜん）したのにたいして、やや遅れて箸の使い方を西洋人が学ぶようになった。椅子とベッドの生活が日本の家庭に浸透したころ、アメリカの居間ではラグを床に敷いて座ってくつろぐ姿がめだち始めた。握手、抱擁、お辞儀、接吻といった挨拶の様式も、若い世代では異文明のあいだで共通の意味を持つことになった。異質性は宗教儀式とそれにまつわるタブーの領域に限られ、世俗的な祭典というべき(イ)コウカンの様式は世界のどこでもあい似ている。とくに若者の舞踊や音楽、パーティーやイベントに集まって楽しむ騒ぎ方には、東西南北の違いはほとんどなくなったといえるだろう。

だがそれ以上に重要なのは、二十世紀におけるスポーツの地球規模の普及であった。一つには野球やテニスやサッカーなど商業スポーツの影響、もう一つには一八九六年に始まったオリンピックの寄与が大きかった。

ここで注意しておくべきことは、(3)スポーツが一見、「する」身体の行動であるように見えながら、じつは典型的な「ある」身体の行動だという事実である。たしかに速く走ることも、高く跳ぶことも、ボールを投げたり蹴ったりすることも、一応は身体が外界に関わる行動の一種だろう。だがそのさいスポーツが関わる外界はいわば虚構の外界であって、産業労働や家事労働が関わるような真の現実ではない。スポーツの外界は、真の現実がつねに持つ偶然性を極限まで免除され、現実行動にとっては避けがたい、いわゆる目的の連鎖からも解放されているからである。

たとえば一〇〇メートル競走の場合、走る路面は完全に平坦に整備され、ランナーは風を除くいっさいの偶然性に配慮する必要はない。これが現実の疾走なら、走者は路面の状況から交通渋滞、風雨から自分の服装にいたるまで、おびただしい偶然性の心配にわずらわされて走らなければなるまい。ついでにいえば、スポーツでは競

技者は目的も方法も厳密に与えられていて、目的にとって最適の方法をみずから選択するというわずらいも持たない。現実の走者はあまたある移動手段の比較考量を迫られるのにたいして、一〇〇メートル走者はただ足で走ればよいのである。

さらにスポーツが選手に与える行動の目的は、スポーツそのものが決めたルールがあるだけで、それ以上の広い現実の要求によるものではない。マラソンが四二・一九五キロメートル走るのは恣意的なルールにすぎず、真の現実のなかで合理的な意味は持たない。裏返していえば、マラソンの完走はそれだけで完結した意味を持つのであって、より上位の意味を持つ目的の手段となって奉仕することはないのである。現実の人生において、すべての行動の目的がその次の目的の手段となる関係にあって、目的が無限の連鎖をつくっているのに比べて何という違いであろう。

こう考えると、スポーツの本質はやはり舞踊や化粧や礼儀作法に似ていて、自己の「ある」身体を一定の様式によって確認する方法だと理解できる。それは何かを「する」ことによって(4)外界に関わる行動ではなく、存在するだけで価値のある身体、いいかえれば「私である」身体に関わって、その存在感を確認して楽しむ営みだといえる。各種のスポーツのジャンルとそれぞれのルールは、その自己確認のための様式であって、また反対に、それに従うことによって身体そのものも存在様式を獲得することができるのである。

付言すれば、このスポーツの性格はそれが商業化され、あるいはオリンピックの行事として制度化されて、見るためのスポーツになっても変わることはない。職業スポーツは選手に報酬を与えるし、オリンピックは名声や社会的地位をもたらすが、これはスポーツが現実の目的連鎖に組み込まれたことを意味しない。なぜならスポーツの目的は［　　］を完全に実現する行動であって、この点は報酬や名誉の付与があろうとなかろうと変わらないからである。現に職業スポーツとアマチュア・スポーツは、(ロ)コウセツの違いはあれ正確に同種の身体運動を繰り広げる。報酬や名誉はスポーツにとって外的、付随的な条件なのであって、この点は近代芸術が報酬を受けても芸術でありつづけるのと同じだといえよう。

二十一世紀初頭の現在、サッカーは五大陸のすべてで、野球は太平洋の両岸で楽しまれており、テニスは英、仏、米、豪の四大大会を頂点として全世界の観客を惹きつけている。一〇〇を超えるオリンピック種目はそれぞれ各国に根をおろし、男子競技では三大陸五〇ヵ国以上、女子競技でも三五ヵ国以上で親しまれている普遍的な種目だけが参加を許される。古代ギリシャに発する競走や投擲（とうてき）競技、西洋中世にさかのぼる乗馬やフェンシング、さらには東洋由来の柔道やテコンドーなども含まれ、競技者は文字通り地球のすべての地域から集まってくる。そしてその熱戦の模様は、テレビや新聞を通じて、逆に全地球の人類に届けられて興奮を誘うのである。

二十一世紀の人類は、「ある」身体のすべての機能についての理想を共有し、その実現を追求することでも、成果をともに賛美することでも連帯しつつあるといえるだろう。

（山崎正和『世界文明史の試み』による）

問

(A) ═══線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。（ただし、楷書（かいしょ）で記すこと）

(B) ═══線部(1)について。「電卓や電動鋸の操作法にはもはやそんなものはない」のはなぜか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 機械化による利便性を人々が追求し始めたから。
2 製品の市場が世界規模に拡大してきたから。
3 機械化により身体能力が必要なくなってきたから。
4 労働のあり方が統一化され世界に普及してきたから。
5 専門知識や技能が要求されるようになってきたから。

(C) ――線部(2)について。その意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 段階的に　2 急に　3 着実に
4 ゆっくりと　5 勢いよく

(D) ――線部(3)について。その理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 スポーツの能力は身体のあり方によって決定されるが、身体のあり方自体もスポーツの能力によって確認されていくから。
2 職業スポーツでは報酬や社会的地位を獲得できる人もいるが、アマチュア・スポーツではスポーツ自身がもつ楽しさを追求できるから。
3 スポーツの結果は外的な環境条件によって左右されるが、より影響を及ぼすのは「私である」身体の限界であるから。
4 スポーツを行う過程では無数の目標設定が必要であるが、実際には身体のレベルをその都度確認しながら進行していくから。
5 我々はスポーツの結果を数値として評価するが、本来はその数値が目的なのではなく身体自身を楽しむことが重要だから。

(E) ――線部(4)について。ここでいう「外界」とほぼ同一の内容を表している語句として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 生産労働が中心の世界
2 目的連鎖から解放された世界
3 偶然性に配慮された世界
4 様式が標準化された世界
5 理想を共有した世界

(F) 空欄 □ にはどのような言葉を補ったらよいか。最も適当な語句を本文中から抜き出し、句読点とも五字以内で記せ。

(G) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ 筋肉と骨格の構造はスポーツの運動能力に強く影響し、運動の様式によって身体のあり方も決定される。

ロ スポーツは身体が外界に関わる行動であるが、内面的ストレスを解消することも可能である。

ハ 宗教特有の礼儀作法と職人仕事とは、身体という観点からみたとき同一の行動様式である。

ニ 舞踊や化粧がスポーツに似ている理由は、近代芸術が芸術でありつづける理由と本質的には同じである。

ホ 人類は生産労働の分野のみならず、非生産的分野においても世界的に結びつきを強めている。

二　左の文章を読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

最近、「生物多様性」という言葉が新聞や雑誌、インターネットによく登場するようになった。

ごく平たくいえば、生物多様性とはいろいろな生物がいるということだ。もう少しきちんとした説明を加えれば、いろいろな生物、という中には、いろいろな「種類」の生物という意味もあるし、人にもいろいろな姿や性格の人がいるように、同じ種類の生物の中にもいろいろな「個体」がいる、ということも含む。さらには、同じ場所に棲(す)むいろいろな生物と光や水などといった環境の相互関係によって創り出されたシステムである「生態系」の多様性も含まれた言葉である。

しかしこの言葉、わかりにくい、と評判はあまり(イ)カンバしくない。地球環境問題といったときに、地球温暖化と生物多様性の消失は並べて語られることが多いのだが、だんだん夏が暑くなって冬の雪が減るといったことを、文字通り肌で感じている気になれ、二酸化炭素を減らすというわかりやすい目標を示せる温暖化問題と違って、(1)生物多様性の消失、というのは今ひとつぴんと来ない。

熱帯林で研究する生態学者として、生物多様性の大切さを一般の方に話したりする機会も多くなってきたのだが、聞く方、話す方双方ともすっきりと「わかった」「わかってもらえた」気になることはなかなかない。どうすればいいのだろうと考えるうちに、生物多様性の価値づけの難しさは、生物学的な難しさによるところもあるのだが、「多様性」というものの評価の難しさによるところもとても大きいのでは、と考えるようになった。

(ロ)ヒキンな例で恐縮だが、例えばレストランで食事をすると考えてみよう。メニューにはいろいろな料理が並んでいて、(ハ)フトコロ具合や空腹具合、好みやその日の気分で料理を選ぶ。それぞれの値段は違っているが、素材の値段や調理の手間、分量によって値段が違ってくることは納得できるし、値段の差の妥当性についても、人によって大きく意見が違うということはないだろう。

では、メニューの数についてはどうか。あるレストランはランチのAとBしかないが、別のレストランにはも

っと豊富なメニューがあるとする。おそらく、後者は前者より、設備や材料、手間にコストがかかるだろう。それは容易に想像できるのだが、それでも、その二つのレストランで同じ料理が違う値段ででてきたら、何か釈然としない。

だが、毎日そのレストランで食事をしなければならない、となると、話はまた違ってくる。安いレストランと契約すればお昼は毎日同じメニュー、高いレストランと契約すれば一ヶ月毎日違うメニューが食べられる、となれば、少々高い値段でも後者を選ぶ人も多いに違いない。

ここでまた難しいのは、どれくらいの種類にいくら払うのか、というのが、場合によって、人によって大きく違うことだ。毎週月曜日はカレーライス、火曜日は鯖の味噌煮、と毎週同じメニューでも苦にならない人もいるだろうし、それより高くても一ヶ月毎日違う料理を食べたいと思う人もいるだろう。また、毎日同じメニューか、一ヶ月ローテーションの日替わりか、といえば日替わりを選ぶ人が多いだろうが、一ヶ月ローテーションか一年ローテーションか、といえば、どっちでも大差ないように思う人もいるに違いない。どうも、多様性の価値はメニューの数（多様性）に比例するのではなく、多様性が増えると一種類あたりの価値は目減りすることが多いようだ。

いろいろなものが食べたい、という欲求に加えて、食べたことのないものを食べてみたい、という欲求もある。珍しいもの、というのはそれだけでおいしそうな感じがするし、旅行にいってほかでは食べられないその土地の名物があると聞けば、食べずに帰るのはとても惜しいことのように感じる。テレビではグルメ話がひっきりなしに取り上げられるが、それはもっとも大外れしないネタの一つだからに違いない。

このように食べ物に多様性を求めたり、珍しいものに高い価値を感じるのは、どうしてなのだろうか。ある程度バランスのとれたものを食べていれば、毎日同じものを食べていても、さほど健康に支障があるようには思えない。おそらく、わたしたちが欲する食べ物の多様性は、栄養学的見地から望ましいとされる食べ物の多様性よりもずっと高い。まして、珍しいものを食べることに、健康や生存にプラスの効果があるとは考えがたい。むし

ろ、珍味とよばれるものには、痛風や肥満の原因とされ、健康によろしくないとされるものの方が多いかもしれない。

人間が多様性を求めるのは、食べ物ばかりではない。服や装身具は、同じものばかり身につけていたのでは気が済まないし、人と違ったものを持つことは、しばしば称賛の対象となる。多様性に惹きつけられるのは、人間の本能的な性質の一つなのではないだろうか。それは昔、人類がまだ野生の植物や動物のみを食べ物としていたときに、多少の危険を冒しても、新しい食べ物を開拓していくために必要なことだったのかもしれないが、本当の理由は謎である。

さて、そのような人の多様性への嗜好は、生き物にも向けられてきたことは疑いない。未知の生物を求めて熱帯林に分け入った探検家や、新しい種に興奮する分類学者の例を引くまでもなく、生き物の多様性へのあこがれのような気持ちはごく普通の人々の中にもずっとあったものだろう。日本でも江戸時代から園芸ブームが繰り返しあって、珍しいというそれだけで高値で突然変異株が取引されてきたし、動物園や水族館は、いつの時代でも不変の人気を誇るアトラクションだ。

一方で、生物多様性を「なぜ」守らなくてはいけないのか、といったときに、このような、いろいろな生物がいる、ということの楽しみや喜びが言及されることはあまりない。生物多様性がなくなれば、水や空気をきれいにする生態系の機能が下がったり、病気や害虫の大発生がおこりやすくなる、とか、遺伝子を使って役に立つ薬や作物の開発ができなくなる、とか、人間の生存の危険やわかりやすい経済的利益によって説明される。

しかしわたしは、このことに何か居心地の悪さを感じてしまう。そう、本当はおいしいものや珍しいもの、毎日変化にとんだものを食べたいがために、料理法を工夫し、いろいろな食材を買っているのに、それをカロリーや栄養素だけで説明している、そんなちぐはぐ感があるのだ。

生物多様性が失われているといったときに、象徴として取り上げられるのは、日本ではトキ、ボルネオの熱帯雨林ではオランウータンといったところだろうが、そこにも違和感がある。トキもオランウータンも、生態系の

中である役割を果たしていることは間違いないが、トキやオランウータンがほとんどいなくなってしまった今も、それらと共に絶滅してしまった生物はあるかもしれないが（トキにつくトキウモウダニというダニは、トキがいなくなると生きていけないらしい）、生態系が崩壊しているということはない。前に述べた[2]生物多様性を守らなければならない理由とは、ぴったりとは該当しない気がする。

トキやオランウータンを引っ張り出すことは、生物多様性保全の文脈の中では、次の二つの理由で説明されることが多い。一つには、親しみやすい生き物でトキやオランウータンの生息地全体の生物多様性や生態系を代表させている、というもの。トキやオランウータンを守るということは、それらが住めるような環境を守るということと同じ意味になる。一般の人には熱帯林を守ろうなどというよりも、オランウータンを守ろう、といった方がわかりやすいでしょう、ということだ。この場合のトキやオランウータンを、フラッグシップ・スピーシーズ（象徴種）と呼んだりする。

もう一つは、その生物の存在意義を「文化的価値」で評価しようというものだ。トキはかつて日本に広く分布し、珍しい鳥ではなかった。古くから歌にも詠まれるなど、日本の文化を育んできた要素の一つともいえる。そのようなトキがいなくなってしまうということは、生物種の一つを失うということに加え、文化の一部をも失うことになる。このような文化的価値を認めれば、トキウモウダニは絶滅してもいいけれど、トキは絶滅しないでほしい、というような生物種による価値の違いも説明できる。

この[3]文化的価値、というのは一見便利でもっともらしいが、扱いはとてもややこしい。まず、人によって価値観が違うということも十分ありうる。また、時代によって、その価値観もかわっていくだろう。今は大事な生物でも、未来永劫ずっとそうだとは限らない。きわめてあいまいな価値なのであり、明らかに自然科学の範疇をこえている。

生物多様性のわかりにくさ、というものの根っこには、概念の難しさ、複雑さに加えて、以上のべてきたような、悪くいえば議論のすりかえやあいまいさがあるのは間違いない。それは、おそらく科学者やマスコミが意図

してやっているのではなく、生き物に対する愛着や多様性への嗜好といったよくわからない感覚的なものを、科学の枠の中に押し込めようとしたひずみなのではないかと思う。

このようなことを(a)＿＿＿＿つらつら考えた結果、感覚的なものを切り捨てるのではなく、大切にした方がよいではないか、と思うようになった。多様性を好むのは、結構大切な人間の性質なのではないだろうか。わたしはひそかに、もしかすると、人間ばかりでなく、昆虫なども含めたいろんな生き物が、それぞれいろいろなレベルで「多様性好き」「珍しもの好き」なのではないか、と思っている。なぜ多様性を好むのか、については、なっとくできるような科学的な説明はまだない。しかし、だからといって、(4)そこに意味がない、と考えるのは、もしかすると間違っているのではないだろうか。

「科学も一つのものの見方にすぎない」。日高敏隆氏(注1)は、科学も含めてわたしたちのものの見方はみんなイリュージョン(注2)だと思った方がいいかもしれない、といろいろなところでくりかえし述べている。その言葉に、わたしは非常に素直に共感できる。(b)＿＿＿＿いやしくも科学研究で飯を食っている者が科学をあてにしてはいけない、というようなことをいうなんて、と思われるかもしれないが、＿＿＿＿＿＿

（酒井章子「「科学」からこぼれ落ちる「生物多様性」」より）

（注）1　日高敏隆――動物行動学者（一九三〇～二〇〇九）。

2　イリュージョン――幻影、幻想。

問

(A) ═══線部(イ)〜(ハ)を漢字に改めよ。（ただし、楷書で記すこと）

(B) ━━線部(a)・(b)について。それぞれの言葉の意味として最も適当なもの一つを、左記各項から選び、番号で答えよ。

(a) つらつら
1 あれこれ適当に
2 念を入れて詳しく
3 思いつくままに
4 長い時間をかけて
5 根気よく

(b) いやしくも
1 かりそめにも
2 ふつつかながら
3 若いとはいえ
4 恥ずかしながら
5 ほしいままに

(C) ═══線部(1)について。「今ひとつぴんとこない」のはなぜか。その説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 「生物多様性」の価値は、選択肢の増加にともなって目減りするから。
2 人間が「生物多様性」に価値を求めるのは、本能的な性質によるものだから。
3 「生物多様性」の価値を、ひとつの尺度で判断することはできないから。
4 「生物多様性」という考え方からすれば、種の消失そのものが自然な営みだから。
5 人間も「生物多様性」の一部であり、それを客観的に評価することができないから。

(D) ═══線部(2)について。その内容に最もよくあてはまる二十字以内の部分を、本文中から探し出し、初めと終わりの三字を記せ。ただし、句読点は含まない。

(E) ――線部(3)について。その理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 文化的価値には実体がないにもかかわらず、そこに生きてきた人々の思いが映し出されているから。

2 そこに棲息している生物に歴史や文化を象徴させるという発想そのものが恣意性を免れないから。

3 人それぞれまったく異なっているはずの価値観をひとつに束ねて、文化とよぶこと自体が幻想だから。

4 文化的価値というものをつきつめていくと、絶滅が危惧される稀少な生物にばかり関心が集まってしまうから。

5 自分たちが生きる時代の規範で生物種の価値を決めることによって、未来に大きな禍根を残す可能性があるから。

(F) ――線部(4)について。そう考える理由として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 「なぜ」という問いに対して科学的に説明できなければ意味がない、と考える発想そのものが非科学的だから。

2 現在の科学では解明されていない領域にこそ、これからの科学研究を発展させていくヒントが隠されているから。

3 自分たちのものの見方それ自体を疑い、それがいかにあてにならないものであるかを知ることが科学の役割だから。

4 感覚的なものに突き動かされる生き物の性質に着目し、科学ではとらえきれないあいまいなものを追うことも重要だから。

5 時代によって価値観が変化する以上、自然科学の探求に意味があるかないかという判断も未来に委ねるしかないから。

(G) 空欄［　　］にはどのような表現を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1　研究者もまた、一般の人と同じ感覚をもっているのである。

2　研究者にも、弱音を吐きたいときはあるのだ。

3　研究者だからこそ、常識を相対化できるのである。

4　研究者は、つねにそうした矛盾を抱えているのである。

5　研究者だからこそ、かえってそれがよくわかる。

(H) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ　生物多様性の問題を自然科学という枠組みの中だけで考えようとすると、議論をすりかえた説明になることが多い。

ロ　レストランにおけるメニューの選択基準は人それぞれなので、豊富なメニューがあればよいというわけではない。

ハ　人間は動物園や水族館を通して、この世界にいろいろな種類の生物がいることの喜びに目覚め、その豊かさを享受してきた。

ニ　人間は、たとえそれが健康や生存を脅かす危険があったとしても珍しいものを食べてみたいという欲求を抑えることができない。

ホ　人が特定の動物をペットとして飼育し、その個体を唯一無二の存在として溺愛する感情も、生物多様性という概念で説明できる。

三　左の文章は『落窪物語』の一節である。三条邸は落窪の姫君が亡き母から伝領したものであったが、姫君が失踪中であるのをよいことに、父の源中納言は後妻の北の方たちを連れて三条邸に移り住もうとする。姫君は衛門督に匿われており、その衛門督が源中納言の行動を阻止しようとする場面である。これを読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

かくて、「『明日、渡るべし』とて、中納言殿には、御方[注1]々の物運び、簾かけしつらふ。人々[注2]の物さへ運ぶ」と、聞きたまひて[注3]、衛門督の殿の家司[注4]なる但馬守、下野守、政所の別当なる衛門佐、雑色[注5]などのきらきらしき[注6]を召して、「しかじかある所の三条なる、領ずるを、『渡らむ』と思ふほどに、源中納言、いかにすることにかあらむ(a)」

(イ)『そこを領じて造る』と聞きつるを、『さりとも消息してあるやう言ひてむ』と待ちて、物も言はざりつるに、『明日渡る』となむ聞く。まかりて、『いかなることぞ[注7]。(ロ)ここにしるべき所を、音もせで渡るは、いかなることぞ』。(ハ)そこに物運びたらむも、な取らせそ。ここにも『明日渡らむ』と思ふ。男ども、雑色所定めて[注8]、ただゐにゐよ」とのたまへば、皆うけたまはりて、ひきて往ぬ。げに見れば、造りざまいとあらまほしう、砂子[注9]敷かせ、簾かけさせなどす。いと猛に引きつれて来ぬ。人々おどろきて、「いづこの人ぞ」と問へば、「衛門督の殿の家司、職事ども(ニ)なり。この殿は、殿のしろしめすべき所なるを、『いかにして、御消息をもせで、渡りたまふべかなるぞ、しばしな渡しそ』と仰せらるれば」とて、入り立ちて、「ここは雑色所ぞ」など定めて、「ここもとは」「とかくせよ」などおこなひて直さす。

人々あきれ惑ひて、殿に走りて、「かうかうのこと侍り。家司、職事ひきゐてまうで来て、さらに下衆ども、え出で入りせさせはべらず。『殿も明日なむ渡りたまふべき』とて、雑色所、政所など定めて、所どころなどし直させはべり」など申すに、中納言殿、老い心地に惑ひたまひぬ(b)。

（『落窪物語』による）

（注）
1　御方々――北の方たちをさす。
2　人々――女房や召使いたちをさす。
3　聞きたまひて――衛門督がお聞きになって、の意。
4　家司――貴族の家に仕えて事務をする者。
5　雑色――宮中や親王家・大臣家などに仕えた無位の役人。
6　きらきらしきを――威儀正しい者たちを、の意。
7　『いかなることぞ。ここに……渡るは、いかなることぞ』――下に「と言へ」が省略されている。
8　砂子――寝殿造りの庭に敷く白砂のこと。
9　職事――摂関家や大臣家の家政を司る蔵人所の頭、および五・六位の蔵人の総称。

問

(A)　▌線部の読みを平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(B)　――線部(1)を現代語訳した際に補う語句として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　物　　2　宝　　3　邸　　4　人　　5　道

(C)　――線部(2)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　源中納言が事情を告げるだろう。
2　源中納言に中止を指示しよう。
3　源中納言に不快感を伝えよう。
4　源中納言に和解を申し入れよう。
5　源中納言が挨拶に来るだろう。

(D)　――線部(3)と同じ意味を表している三字以内の語句を本文中から探し出し、終止形に改めて記せ。

(E) ――線部(4)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　一人静かに　2　人目を忍んで　3　身内だけで　4　不平も言わず　5　断りもなく

(F) ――線部(5)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　邸を奪われるな。　2　家財を取り返せ。　3　手紙を受け取るな。

4　荷物を渡すな。　5　責任を取らせろ。

(G) ――線部(6)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　ずっと居続けろ。　2　大勢連れて行け。　3　全員追い出せ。

4　急いで建てろ。　5　豪華に造営しろ。

(H) ――線部(7)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　殺風景で　2　人影もまばらで　3　ぜいたくで

4　落ち着いていて　5　好ましい様子で

(I) ――線部(8)の現代語訳を五字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(J) ――線部(9)について。「渡し」の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　衛門督に手紙を送る。　2　源中納言に引っ越しをさせる。

3　源中納言に譲歩する。　4　衛門督に邸を明け渡す。

5　源中納言に家財を取られる。

(K) ～～～線部(イ)～(ホ)のうち、人を指しているものはどれか。最も適当なものを一つ選び、記号で答えよ。

(L) ‖‖‖線部(甲)・(乙)はそれぞれ誰に対する敬意か。左記各項の中から最も適当なものを一つずつ選び、番号で答えよ。

1　衛門督　2　源中納言　3　御方々　4　家司　5　職事

(M) ═══線部(a)・(b)それぞれの文法上の意味として最も適当なものを、左記各項の中から一つずつ選び、番号で答えよ。ただし、同じ番号を二度用いてもよい。

1　完了　　2　打消　　3　断定　　4　存在　　5　過去

【以下余白】